

部室ペンキ塗り報告

2015.1.24



2015.1.24(土)

ほぼ5年ぶりの部室ペンキ塗り作業日。

岡山の田舎から夜行バスで、当日の朝6時半、新宿西口住友センタービルに到着。

早朝だと言うのに、一帯はスキー場行きのバス待ちの若者でごった返している。さすが大都会。

新宿駅の構内で箱根そばを食べた上で、久しぶりの中央線に乗り国立へ。

途中斑に雪をかぶった奥多摩の山並みが見える。懐かしい。

部室のそばまで来て驚いた。

最近流行の現代建築家の設計になるようなスレート、ガラス張りの黒い建物があるばかりで部室が見えない。つぶされてしまったのか？

振り向けば野球場とその脇の桜並木道は往年の姿のままだ。





と、心配しながら黒い建物の横を抜けると、鉄パイプの枠に白いネットを張った「ペンキ塗り作業台」にぐるりと囲まれた部室が姿を見せた。時に7:54。

山岳部部室を中央に、南が合気道部道場、北が空手部道場と言うことでこの一帯は体育会系3倶楽部の聖域として発展(?)していたのだ。

それにしても何と立派な作業台だろう。前回は学務課から借りた2つの脚立に長い板を渡して上がったり降りたりしながら塗ったものだから時間も労力もひどくかかった。さすが時代は進むものだと感心。

とは言え、ちょっと早すぎて誰も来ていない(10時集合なのだから当たり前だ)。おかげで鍵のありかも分らず、小屋には入れない。仕方ない、そこらに転がっていたベニヤ板をもって来て地面に敷き、臨時脱衣所とし、ペンキ塗り着に着替えて、8時過ぎ一人で作業開始。



ほこり落としのbefore & after 比較



前回もそうだったが丸太小屋ペンキ塗りの基本は塗る前のほこり落とし。

ほこりが残ったままではペンキはうまく塗れない。塗ったつもりでもすぐにはげてしまう。そこで、たわしが活躍。丸太の木目に垂直に交差する様に上下にたわしを動かす。

すると、マスクをしていてもすぐ真っ黒になるほどほこりが舞い上がる。ほこりばかりでなく、前回塗ったペンキも、そして劣化した木部表面もこそげ落ちる。ほどなく腕が疲れ果てる。

しかし、見事な木目が浮き上がってくる。この小屋は新築から15年経っている。その間、太陽と雨風にうたれ続けてきた。おかげで、ほこりの下から丸太の様々な木目が浮き上がってくる。この模様を楽しみながら作業を続ける。一人だと襖一枚分のほこり落としに15分かかる。と言うことは全部で15人・時必要！





一体どれだけ時間がかかるかと心配したが、10時には学生、OB総勢14名が集めた。全員足場に上がり、どんどん作業を進める(中には足場の上が怖いと言う学生もいたが、)。

この人海戦術で、2時半までにはほぼ塗り終えた。ペンキも1斗缶一つ+5L缶で十分間に合った。

その後は小屋の回りに放置されていた粗大ゴミ、不燃ゴミの再整理。

3時前には、ゴミ整理作業も終り、希望者は東地区の体育館のシャワー一室でほこりを落とした。





その後国立駅前の居酒屋へ。宮崎に本社があり、日本全国に100以上、シンガポールにも店があるという塚田農場なる店で打ち上げ。参加者は7人と半減したが学生とOBの間でかなり濃密な交換ができた。次のペンキ塗りは5年後。その頃山岳部、そして針葉樹会は一体どうなっているだろう？お楽しみに。



太田 3年

宮武 S45

井草 S48

上 2年

前神 S51

西山 3年